

第3回 議会改革特別委員会

令和5年7月12日（水）
5階 第1委員会室

開会 13時25分
閉会 14時09分

午後1時25分 開会

○委員長（渡邊康弘君）

皆さん、こんにちは。ただ今から令和5年第3回議会改革特別委員会を開会いたします。

○委員長（渡邊康弘君）

それでは、早速、議題に入りたいと思います。

1つ目として、岩倉市の視察についてを議題といたします。

こちらに関しまして、昨日、皆さんと共に岩倉市に視察に行っておりました。視察に行き終わりではなく、皆さんの意見を運ばせていただいて、議会運営委員会に上げていきたいと思いますので、各委員からのご意見を聞けたらと思います。

早速、皆さんの意見を順番に聞いていきたいと思います。

まずはふれあいトーク、議会報告会及び意見交換会の取り組みについて、皆さんの意見を聞いていきたいと思います。

何を感じたかっていうところも含めて、意見言っていただければと思います。

まず、小木曾委員からまいりたいと思います。

○4番（小木曾光佐子君）

この「ふれあいトーク」という名前がまずいいなって、報告会ではないっていいなっていうのがまず最初に感じたところと、それから、5事業に絞って、市民から提案をするっていいのかなって思ったことと、開催日の1か月、2か月前の告知って言われましたよね。2か月前、1か月前、1か月で大丈夫かなとちょっと思ったら、それでも集まるってような話だったので、それとやったことが、代表質問につながったことがあったんですけど、うちが代表質問やるかどうかは別にして。

今の名前のことと、それと予算決算、3月と9月は、一般質問の前何て言ったっけ。あとは委員会がちょっと前かという。それがちょっとうちとは違うので、一緒にできないかなと思ってます。

○委員長（渡邊康弘君）

それでは、続いて、大久保委員、お願いします。

○5番（大久保京子君）

私も「ふれあいトーク」という名称がすごくいいなと思いました。報告会とかいうよりも、まずそれがすごい良かったなということと、今、本当、小木曾委員が言ったのとほぼ全く一緒ですけど、予算決算のことに関してもお話しされましたし、結構、市民の方々とふれあいという、そ

ういう機会を大切にするという議会の姿勢がよく見えて、これは良かったかなという感じに受け止めました。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

熊谷委員、お願いします。

○7番（熊谷隆男君）

まず岩倉市の議長さんに後で話を聞く、投票率なんだよね。市が40%を超すぐらいだと。要は市民の人が関心がないと、議会に対して興味を持ってもらってないと。議員の役割というものを余りということに向けて、つながりを深めるという意味で言えば、手法として、議会報告会であったり、意見交換会を開くと。

ただ、それを予算前にやるということの意味がよく分からない。何で、予算に反映できないってある質問したけども、予算の何年前にやって、予算のときにそれをものを言うっていうことでいうと、あのときの説明によると、予算の資料が配られて、それから、その間にやるってというようなイメージのことを言われたけども、市民がそれについていけるのかなと。

予算が一週間前に渡されたと。そしたら、予算についてを議論するためと言って、市民の人との意見交換をすることが、パフォーマンスとしては市民の皆さんへ理屈が通るかもしれないけども、本当に実質的に意見をいただくことができるかなって意味で言うと、何となく大衆迎合的なことではないかなと。

ただ、瑞浪と違って財政的にも豊かでもあろうし、それから、面積狭いということで言うと、そういうことをもってでも市民の皆さんの声を聞かないかんということで、意見交換の部分で言うと、モニターというか、会議所であるとか、一定の同じ人になってしまうのではないかと、こういうやり方でいくと。

自分ところで、団体とというやり方も何とか詰まってくるのではないかなと、手法としては。むしろ年層に分けて別個で取り組むとか、テーマを決めてというような意見交換のほうが、何となく実質向き、意義があるような気がしました。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

奥村委員、お願いいたします。

○3番（奥村一仁君）

成果として、市民の声をできるだけ反映させていくということはあるというお話でしたけど、市民の参加者にとってみれば、何かしらメリットというか、満足感がないとなかなか続けて出席したりとか、出席する意味を見出していだけないかもしれないので、そういう市民の声を反映させていくという仕組みを作ることは、報告会とか、ふれあいトークの参加者の満足度の向上につながると思うので、こういう仕組みは取り入れてもいいんじゃないかなと思いました。

前提が抜けてましたけど、予算に対する意見、そういうとこですけど、結果的にその意見を受け

て予算に反映されることはないんでしょうけど、ただ、市民の満足度という意味ではこういう仕組みが一つ継続して、その他、特定の団体に呼びかけなくても向こうから参加者が集まってくるっていうのも一つの理由かなと思いました。

あと、インボイスの請願について紹介者と意見交換したというのがあったと思うんですけど、そういう専門家意見を聞いて、そういう判断材料とするのもいい試みだと思うので、次期開催時期を決めずに、その都度やっていくのも必要があればいいのかなと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

棚町委員、お願いします。

○2番（棚町 潤君）

ふれあいトークの中で、例えばタイトルを「お団子トーク」とか「おむすびトーク」とか、「ふれあいトーク」というふうに、市民が親しみやすいというところで名前をつけてみえるなということを感じました。

なるべく市民に開かれたような議会を目指された中での工夫かなと思っていましたけど、やはり予算決算前に年2回開催するっていうこととか、その中で、市民の皆さんの意見を聞いて、じゃあ、それを議案にどうやって反映するのかっていうのを、まだ悩まれている状況なのかなというのを視察に行かせてもらって感じました。

インボイスのこともお話を聞かせていただきましたけど、やっぱり専門的な意見をいただいた後、それをどうやって議案に反映させていくのかっていうところが、もしこういったことと同じような試みを行うのであれば、そういうところを考えていかなければなと思いました。なかなかタイトなスケジュールで、瑞浪で実現できるかはちょっと難しいかもしれないなと思ったところです。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

犬塚委員、お願いします。

○1番（犬塚利彦君）

僕も初めて参加したわけですけど、モニター制度とかという形で市民の声を取り上げるという方法を打ち出してみえたけど、本当に効果があるように見えなかったの、参考になるというような話はなかったですけど。

ただ、議員の質問は何回してもいいような議会で、瑞浪の議会ちゃんねるを見ると、議員が2問だけに限らずに、何回でも質問してるようなことは取り入れるべきじゃないかなと思う。質問を数限りじゃなしに、限定するんやなしに、必要に応じて幾らでもというわけにもいかんと思いますけど、自由な質問ができればいいなと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

分かりました、ありがとうございます。

委員長から、ちょっと意見言わせていただきます。

ふれあいトークに関しましては、皆さん言っていたように、親しみやすい、議会報告会とか、意見交換会という形じゃなくて、親しみやすいお団子トークであったりとか、会に合わせて名前変えられてやっているのはすごく良いところだなと感じました。

その中でも、特に各団体等に伺う手法でやっているというのも、誰が来るか分からないからやってみて、1人だけでも開催したけど、このままではいけないというところを変えていったところは一つ見習うべき部分があるのかなと感じました。

予算前に行くことに関しましても、ブランド野菜に関しては、予算を増やすことができなくて、最終的にはってというのがあったので、必ずしも無駄ではないかなと。市民の意見を取り入れ、非常にタイトなスケジュールで、半年以上の期間を使って、この全ての流れを経た上であれなんで、なかなか難しいところはあるけど、そういった市民の声を実現するという形としては良い報告会とか、良い流れじゃないのかなと感じました。

○7番（熊谷隆男君）

予算に反映とって、一週間前に出て、質疑でやって、それじゃあ変えましたっていう変更ではなくて、それが次のときに反映されるというもので、一週間前にやったので、予算を否決するわけではなく、修正するなんてことはあり得ないので、そこはそっとしておいて、それから議論の種になって、何年かかったか知らんけども、反映されたということであるので、必ずしも予算のところでやったので、むしろ予算が終わってから出てきてもいいぐらいの話なので、時期的には議論を尽くす時間があつたほうがいいのではないかなと思った。

○委員長（渡邊康弘君）

今の熊谷委員などほかの方の意見を聞いて、誰々委員に聞きたいとか、ほかの委員の意見に対して質問等がありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、続いて、議会モニター制度の導入と検討と議会サポーターの設置についていろいろ説明いただきました。その説明いただいた中で、皆様のご意見を聞いていきたいと思います。

今度は反対に、犬塚委員からお願いします。

○1番（犬塚利彦君）

議会サポーター制度は新しい提案に見えるけど、市民が参加してるようには聞こえなかったです。制度としてあるということは良いかもしれないけど、余り活用されてないような感じを受けました。

○委員長（渡邊康弘君）

棚町委員。

○2番（棚町 潤君）

議会サポーター制度を導入されて、一番感じたのは、岩倉市議会がフレンドリーだなっていう感じの話を、岩倉市議会の皆さんが視察をモニターの人にモニタリングしてもらって、もっとこっこの意見をどんどん言って闊達な意見交換したほうがいいんじゃないのということを民間の人から言

われて、岩倉市議会で、割に活発に意見交換ができたイメージがあったかなと思っていて、第三者に見てもらふことによってそういう我々の意図せぬ、予期せぬ効果も生まれてくるんだなっていうのを聞かせてもらって、感じさせてもらったと思いました。

このサポーターを募集するにあたって、500世帯にはがきを送ると、文書で送るということで、それに伴って議会がやってることっていうのを周知を進められていたということと、あとサポーターの中から、落選はされましたけど、議員になりたいという人が出たというお話だったので、そういう面ではいいことだったのかなと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

奥村委員、よろしいですか。

○3番（奥村一仁君）

目的は議会運営に関する意見をいただくということだったんですけど、実際は言っているよということで、30代か40代を見て、2、30人はいるっていうことでした。

落選した方がサポーターに回った方がいるとのことですけど、これは全部続けていけば、逆にサポーターの方が興味を持っていただいて、議員になるという方もいずれ出てくるんじゃないか。

特にこの若い方たちは、そういう可能性があるんで、そういう意味では、もしかしたらなり手不足の解消の一助となるかもしれないと思いました。

また、開かれた議会というか、議会の見える化という観点からも、こういうサポーターを設置して、理解をいただいて、そのサポーターの方にも広報をしていただくことができれば、議会への理解、活動の内容とかの理解にもつながるんじゃないかなと思いました。これは設置しても、いいんじゃないかと思っています。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

7番 熊谷隆男君。

○7番（熊谷隆男君）

係長さんの時代になりますけど、市政モニターというのがあって、会議も出られるところ、いろんな職業の方で呼ばれて全部耳を傾けるという意味合いでやられたけども、なかなか自分の周りのことは意見を伺うということになっても、職種にもよるし、年齢にもよるとつながらない。

この人は老人会のことを言う、この人は消防団のことを言うと集約できにくいと思いつながら出た覚えがあります。

さっき2人言われた、議会を理解してもらうためのサポーターという意味合いでは意味があるかなど。その人たちが、サポーターであるから、モニターでもあるわけですけども、その意見を聞くということと同時に、議会を知ってもらうということでは、大いに意味があつていいことだと思います。

その人たちの意見が全てだというような捉え方をすると非常に偏ったものになってしまうので、その辺だけは注意しなきゃいけないと思いました。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

大久保委員、お願いします。

○5番（大久保京子君）

私は最初、サポーターを何年かされて、議員になられた方がいるというのはすごく興味があると思って行ってきたんですけど、結局、先ほど話があったように、議員に出たけれども、残念ながら落選されて、それからサポーターになったという話を聞いて、ああ、そうなのかと。そのほかはと聞いたときに、みえないということでした。

それと任期が1年間でも継続できますということで、始まって5年ずっと続けてみえる人もいるということも聞きました。

話を聞いて、いい制度かもしれないけど、瑞浪市がやっている、うちは議員報告会という名称なんだけれども、その対象者を限定していろんな話を聞くというほうが、市民の声を聞くにはそっちのほうがいいのかなと。うちのやり方もまんざら悪くないという感想を持ちました。

○委員長（渡邊康弘君）

小木曾委員、お願いします。

○4番（小木曾光佐子君）

まずこのサポーターを募集するのに、年齢別だけで無作為に抽出して500人も募集をかけて、大体20人前後ぐらいは集まってくる。だから、無作為に勝手に送られてきた中からでも、サポーターになろうとする人がいるということに対してはちょっと驚きを感じましたし、定例会見に行きなさいよとか、こういうとこの資料を見なさいよとかがあって、縛りもあるので大変かと思ったら、オンラインでもいいという話だったので、気軽に受けられるのかなというところがありました。

私も同じように、6年目に入ったところで、まだ5年なので、すぐに成果が出るってことは余り考えにくいけど、多分これをやることで議会に興味を持ってもらって、議員になってくれる人が出てくるのは、ベストの形なのかなと思う。

さっき、心理的な話が出ましたけど、瑞浪はめっちゃめっちゃ広い。岩倉市はきゅっとなっているので、2か所で大体報告会をやる場所を決めているという話があったぐらい、地理的な部分も全然違うので、同じかけ方をしても違うのかなということがあるので、ちょっとこのことまで瑞浪がやれるかというとなかなか難しいかと思いました。

あと、委員会も、録画したのを見せてるというのも、ここまでやられるのかな私たちはというのはちょっと不安に思ったぐらいでした。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

500人に募集をかけて継続を含めて20人が集まることはすごいなと感じました。

議員にまだつながってないということでしたけど、その議会を知ってもらえるということは、非常に良いため取り入れているんだろうというのを感じました。

ただ、先ほどおっしゃったとおり、地域性とか、瑞浪市の環境を考えて、これだけ広いところで、どれだけ効果的にやっていけるかっていうのは、考えに入れる、すぐじゃなくて、そういうのを検証した上で課題にできるのかなっていうところを考えていかないといけないかなというのは感じております。

皆さん、ほかの方の意見を聞いてみたいことがありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

粛々と進めていきたいと思えます。

続きまして、委員会代表質問制度についてです。

こちらに関して、ふれあいトークの参加者からの意見を議会の質問につなげるプロセスというところを説明していただきました。そのことについて、皆さんどのように感じられたか、ご意見いただければと思います。

小木曾委員からお願いします。

○4番（小木曾光佐子君）

これ結構大変だなと思って、すごく長い時間と月日をかけてやっているの、難しいなと感じてしまって、委員も変わってしまうので、課題も変わってってしまうということもあるし、これは、難しいなと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

大久保委員、お願いします。

○5番（大久保京子君）

私も委員会代表質問はちょっと無理じゃないかなとすごく感じてました。

○委員長（渡邊康弘君）

熊谷委員。

○7番（熊谷隆男君）

瑞浪でも、委員会制をとっているの、委員会が主体ということでもありますけども、予算決算委員会ができたということで、今議案だけの常任委員会では議案が絞られるっていうか、限られると。そういうところで、委員会活動が非常に今十分にできていないと。

そういう意味では、代表質問に関わらず、質問することでも、もうちょっと委員会で提案を、それから、一般質問にもつながるような研究がないと、委員会でありながら委員会のことを何もやっていない感があって、委員長さんは大変だと思うけども、課題について、テーマを持って委員会で対応することで、質問につなげる必要はないと思えますけども、もうちょっと委員会の活動を活性化することで、この制度を取ったことにはなるのではないかなと思います。

今、瑞浪市においても議案審議だけで、委員会自体が本当にかすんでしまったようなことになっているということになると、実質、活動してないように見えてしまうので、もうちょっと委員会活動を活発にするということの案を出して行って、これも参考にしながらしていったほうがいいのではないかなと。さっきお二方が言われたみたいに、このままこれをつなげる、すぐ通すことはちょ

っと難しい気がします。

○委員長（渡邊康弘君）

奥村委員、お願いします。

○3番（奥村一仁君）

岩倉市も課題とかについては今後検証していくということだったので、この代表質問のメリット・デメリットはどれぐらいということにははかりかねたんですけど、重さを持たせるという意味では、こういう代表の方が質問するというのの一つの案かなと思います。

例えば、委員会の中で課題をピックアップして、それに対して皆さん同じ考えということであれば、そういうやり方も一つあるのかなと思いました。

ただ、半年ぐらい準備がかかるということでしたので、それをやるとなると、2月、3月議会の会派が結成されて、すぐ課題をピックアップして議会で質問するというんですけど、ちょっとそれは大変だと思うけど、どこかのタイミングでやってみるのもいいんじゃないかと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

棚町委員、お願いします。

○2番（棚町 潤君）

瑞浪市議会として、代表質問はできないかな。

○委員長（渡邊康弘君）

協議したり、一般質問でやるということでも可能ではないか。

○2番（棚町 潤君）

瑞浪市は確か制度として盛り込まれていると思うのですが、そういったこともまず考えていけないいけない。もし、やるのであれば考えていけないいけないと思いつつ、いろいろ考えないいけないことがあると思っていたけど、先ほどからいろいろおっしゃったように、委員会の総意ということになるので、執行部にも重きを感じていただけることでもありますので、こういったことは委員会で調査・研究して、それを代表質問で行うというのは、委員会活動の総まとめというわけじゃないんですけど、1年間かけた総まとめという形で使うこともできるのかなと思って話を聞いて思いました。

やっぱり時間がないんでしょうね。そこら辺が、それぞれ時間がないというお話と、委員会の中でもコンセンサスをとるのが難しいというようなお話も聞いてましたので、まだまだ課題はあるのかなと思いつつ、ただ、委員会としての機能というのを考えると、こういったことも考えてもいいのかなと感じました。

○委員長（渡邊康弘君）

犬塚委員、お願いします。

○1番（犬塚利彦君）

このことについてははっきりした見解を持ってませんが、委員会としての発言があってもいいかなとは思っています。

会派質問みたいなシステムがあっても良いのではないかという考えです。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

私の考えといたしましては、1年間かけてやられて、過去に導入してから3回しかできてないと言われてる中で、簡単にやれることではないと感じました。

ただ、熊谷委員、棚町委員、奥村委員が委員会活動を活発にして、委員会としての役割、市民全体の声というところをしっかりと上げていくのであれば、こういう代表質問ではないですけど、しっかりと調査・研究を進めていって、質問をするシステム作りというのは、この先も考えていってもいいのではないかと感じました。

ありがとうございます。

一通り、ふれあいトーク、議会モニター、議員代表者質問について聞かせていただきました。

その他、これだけは言っておきたいというようなご意見はありますか。

5番 大久保京子君。

○5番（大久保京子君）

私はいろんなところへ視察に行って、そこの執行部の方々と意見交換をする場に立ち会ったんですけど、岩倉市の方々ほどすごくフレンドリーなやり方をされたのは、初めてだったので、いろんな質問をしやすい雰囲気を作っていただけたのかなと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

7番 熊谷隆男君。

○7番（熊谷隆男君）

議会改革だからできる、議員は答えを出す立場であるけども、普通は行政が答弁になるわけだから、普通の委員会ではそういう形は取れない。議会運営委員会の視察のときにはそういうことがあり得るけど、ほかの常任委員会ではなかなかそういうことにはなりにくいという。やりたくても迎えるほうがそういう態度はあり得ない。

○委員長（渡邊康弘君）

確かに対応はすごいフレンドリーということを感じましたけど、先ほどの話のように難しいかなと思いますので、そこも考えてくれたらいいなと思います。

7番 熊谷隆男君。

○7番（熊谷隆男君）

今のモニターとかで、市民の人と触れ合う機会を増やしているけども、市長選挙のときに、病院のことについても、駅周辺のことについても、議会は事業を認めたんですねと言う人がいるわけね。

要は、始まる前からこうしますよと議会に相談があって、オーケーが出て進んでると思ってるわけです。

予算のときに出てくるだけで、事業化されて予算のときに議決を議会に対して求められるけども、この事業をこういうふうにするけどいいですかと聞かれたことか一回も俺はないと承知しているわ

けです。

ところが、一般市民の皆さんは、きなあつ瑞浪でバーベキュー場のことを議会も認めたわけやという言い方をする。ただ出てくるのは、バーベキュー場を作るということも、別に可否を取られたわけでもない。

要は、それにかかる予算がどうかとか、この予算をこういうふうに使いますというところで、予算審議のところで初めて事業が分かる。市民の皆さんも、これは議会人になる前はどやうやって思っていたかなとお聞きしたい。

市長が今度は駅前こうするというときには、議会もこれに参加してとかそういうことがあると思っていた。事業をやるときには議会に諮って、ここに道の駅を作りますけども皆さんどうですかと言って、賛成って。こういうようなことで決まってくるかなと思ったら、そうではなくて、現実には、行政がこれをするということで議会が囚られる立場というのは、それが予算が変わってこういうことに使いますよというところで審議になって、その可決、否決ということになる。

これを、大方の市民がよく分かってないと思うことがあって、こういう意味でもモニター制度とかは大事だなと。これは広報広聴委員会にも言えることだけど、分かっているものと思って書いているけど、若い人が全然分かってないかなと思う。

議員というものの理解が進まないのは、ここにギャップがあるかなということで、議会改革は、これからも続くと思うけど議員は何をやっているのという感覚やないかなと思う。

○委員長（渡邊康弘君）

1 番 犬塚利彦君。

○1 番（犬塚利彦君）

熊谷委員が言われたように、議員になる前は、計画が出るので、それを了解して、それで予算がついて、予算のところで最終的な答えを議員が出すものと、そんなふうには思っていなかった。もう決まっちゃって、相談しちゃってやってきたので、議員も責任あると、思っていたわけです。

○委員長（渡邊康弘君）

ここで暫時休憩とします。

午後 2 時 3 分 休憩

午後 2 時 5 分 再開

○委員長（渡邊康弘君）

それでは、休憩前に引き続き会議を進めたいと思います。

○委員長（渡邊康弘君）

さっきの質問に関しましては、もう発言もないようですので、本件につきましては、ただ今の皆さんの発言を受けまして、報告書を作成し、提出したいと思っています。

報告書の内容につきましては、委員長に一任をお願いいたします。

議会モニターについては、今後何度か議題にしながら、導入に向けての検討をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○7番（熊谷隆男君）

報告書にこういう意見が出ましたっていうことを書くとき、初めてふれあいトークという言葉が出てくるので、どういうものかということをつけ加えてほしい。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。説明もつけて、分かりやすい報告書にしたいと思っておりますので、お願いたします。

しっかりと議会の意見も共有してやっていきますので、お願いたします。

○委員長（渡邊康弘君）

次に、2、その他を議題とします。

皆さんのお手元に「ICT推進に関するアンケート」をお配りしております。

このアンケートにつきましては、タブレットの更新時期が次の議会にまいります。実際、予算をつけて、タブレットを続けていくのか、どうしていくのかっていうのをしっかりと考えたいと思ひまして、この形でアンケートを実施したいと考えております。

実施する前に、委員の皆さんに一読いただいて確認していただいて、これでよければ各議員の皆様へ配付したいと思ひますが、どうでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（渡邊康弘君）

皆さんのご理解がいただけたということで、こちらのアンケートは明日以降、各議員に配付したいと思ひますので、お願いたします。

説明は以上となります。

質問はありますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

別段質問もないようですので、アンケートにつきましては、全議員に配付させていただきますので、お願いたします。回答期限は、次回全員協議会開催日の7月21日とします。

その他、何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（渡邊康弘君）

別段発言もないようですので、以上をもちまして、令和5年第3回議会改革特別委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後2時09分 閉会